

第1問 次の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) 高等学校学習指導要領(平成30年3月)には、「第2節 地理歴史 第3 歴史総合」の「2 内容」の「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」の中項目「(3) 経済危機と第二次世界大戦」について、次のように示されています。

(3) 経済危機と第二次世界大戦

諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解すること。

(イ) (省略)

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) (省略)

また、上記の小項目「ア(ア)」及び「イ(イ)」について、高等学校学習指導要領解説地理歴史編(平成30年7月)には、内容の取扱いについて次のように示されています。

学習に当たっては、(1)で表現した学習への問いを踏まえて生徒の学習への動機付けや見通しを促しつつ、イ(イ)の経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し、小項目のねらいに則した考察を導くための主題を設定する。その主題を学習上の課題とするために、(中略)この小項目全体に関わる問いを設定して、生徒に提示する。これを踏まえ、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察したり表現したりすることにより、国際協調体制の動揺を理解する学習が考えられる。

※上記の(1)とは、「国際秩序の変化や大衆化への問い」のこと

これらのことを踏まえ、(3)の小項目(イ)について、4単位時間(1単位時間は50分とする。)で授業を実施するとき、どのような指導と評価の計画を作成しますか。小項目のねらいに則した考察を導くための主題を設定し、小項目の主題及び小項目全体に関わる問い、4単位時間の学習活動、指導上の留意点及び評価方法等を書きなさい。ただし、次の点に留意すること。

<留意する点>

- ①政治、経済、社会、文化、宗教、生活などの観点から諸事象を取り上げ、近現代の歴史を多面的・多角的に考察できるようにすること。
- ②単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定すること。
- ③諸資料から、社会的事象等に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動や言語活動に関わる学習を取り入れること。
- ④コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用すること。

- (2) 第1問(1)で作成した4単位時間の指導と評価の計画のうち、任意に選んだ1単位時間（1単位時間は50分とする。）について、当該授業の目標、本時の問い及び本時の流れを書きなさい。ただし、次の点に留意すること。

<留意する点>

- ①「過程」の欄には、1単位時間の授業の流れが分かるように、導入や展開、まとめなどの過程を示し、必要な時間（分）をそれぞれ記入すること。
- ②資料を活用する際には、どのような資料を用いるのかが分かるように、具体的に記入すること。
- ③生徒の活動について、どのような活動をするのかが分かるように、具体的に記入すること。